

# 令和5年度 ライフプランニング学習副読本 『考えようふるさと秋田とわたしの未来』（高校生用） 活用状況調査集計結果

調査対象：県内高等学校 52校（県立：45校、市立：2校、私立：5校）

※分校、地域校を含む。

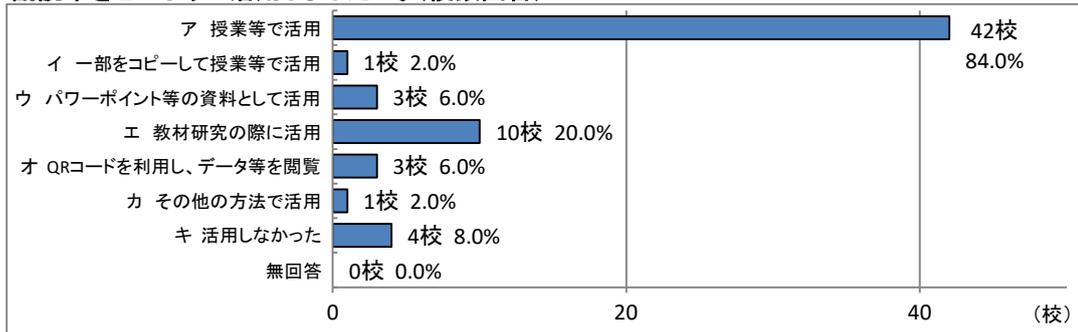
※全日制課程及び定時制課程を併設する高等学校については、各課程における活用状況を統合して1校として集計しています。（通信制課程は調査対象から除外しています。）

◎回答率 96.2%（回答50校／対象52校）

◎活用率 92.0%（活用46校／回答50校）

## 問1 副読本をどのように活用しましたか。（複数回答）

※回答があった50校中



活用方法「カ その他の方法で活用」の主な回答（類似の回答を統合し、主旨を簡略表記している。以下同じ。）

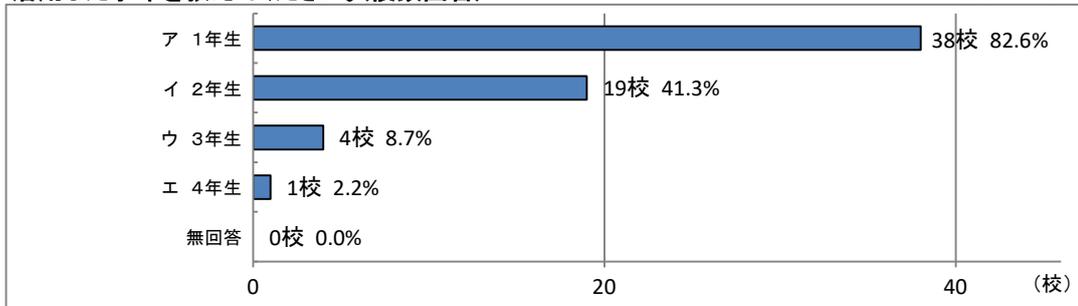
- ・LHRでの進路活動の資料として活用

活用状況「キ 活用しなかった」の主な理由

- ・別の教材を使用した。
- ・教科、総合的な探究の時間、キャリア教育で同じ内容を扱っているため。
- ・使用する機会を用意できなかった。
- ・授業時数の問題で活用できなかった。

## 問2 活用した学年を教えてください。（複数回答）

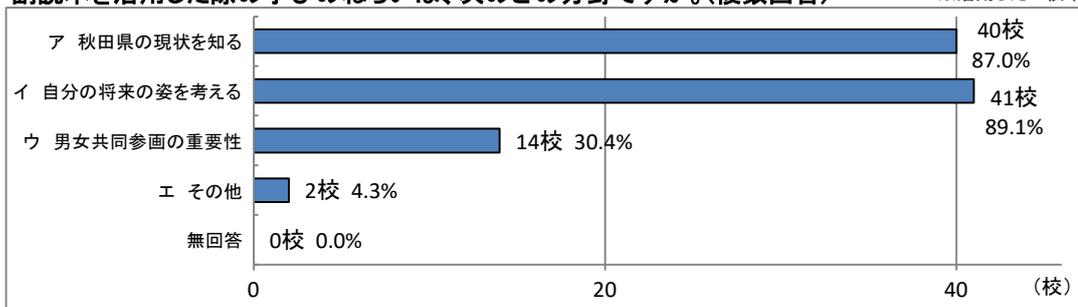
※活用した46校中



※定時制の課程における各学年を含む。

## 問3 副読本を活用した際の学びのねらいは、次のどの分野ですか。（複数回答）

※活用した46校中



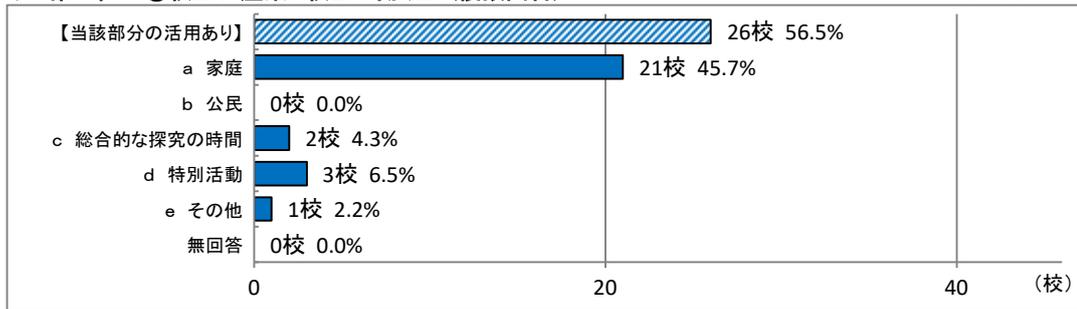
学びのねらいの分野「エ その他」の主な回答

- ・自分のライフプランを考える。
- ・人との関わり方考える。

問4 副読本のどの部分を、どのような場面で活用しましたか。

ア 第1章 ①秋田の産業と秋田で働くこと(複数回答)

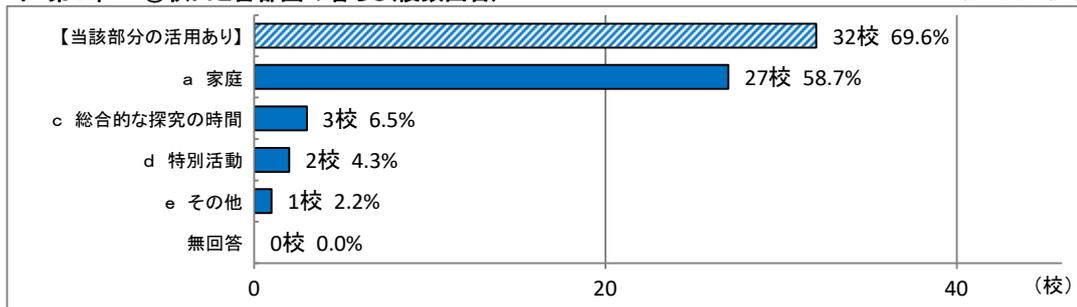
※活用した46校中



活用場面「e その他」の具体的回答なし（以下イ、ク及びケにおいて同じ。）

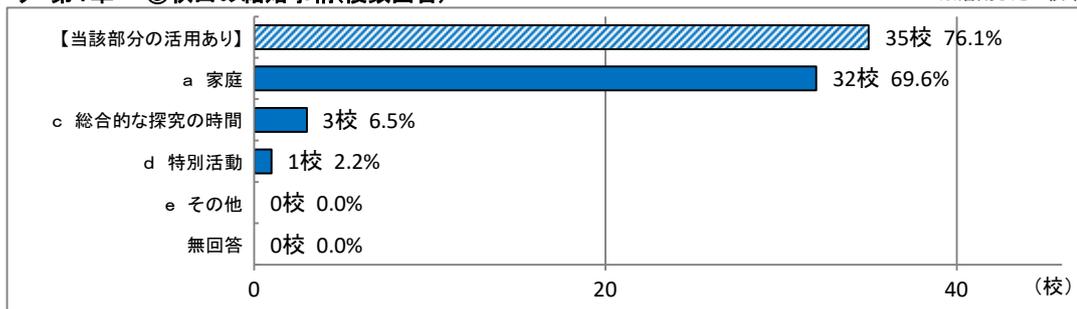
イ 第1章 ②秋田と首都圏の暮らし(複数回答)

※活用した46校中



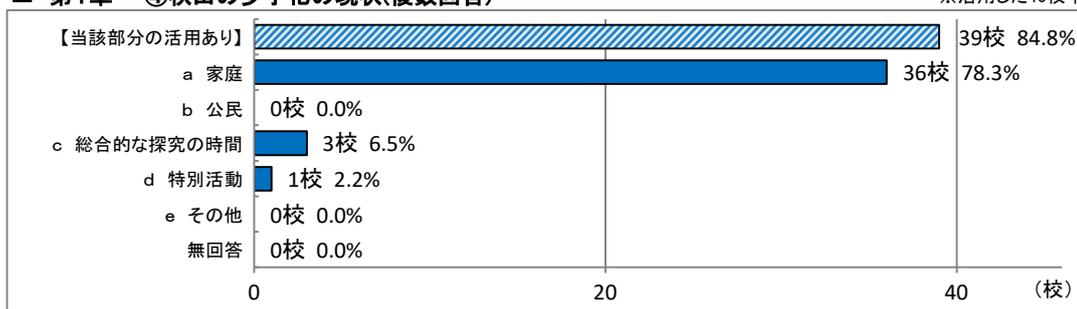
ウ 第1章 ③秋田の結婚事情(複数回答)

※活用した46校中



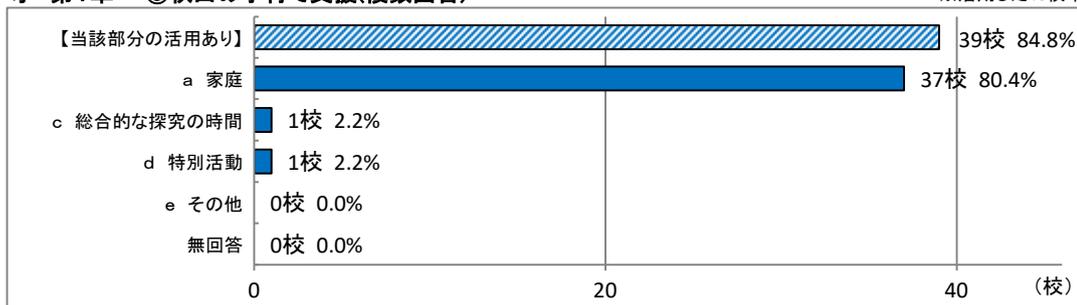
エ 第1章 ④秋田の少子化の現状(複数回答)

※活用した46校中



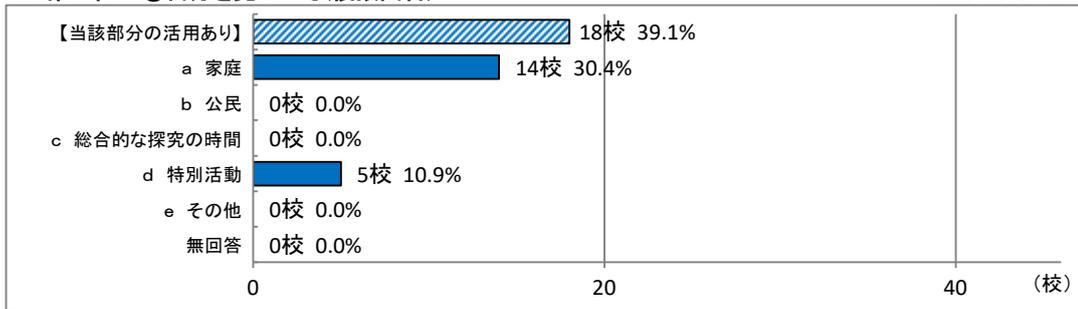
オ 第1章 ⑤秋田の子育て支援(複数回答)

※活用した46校中



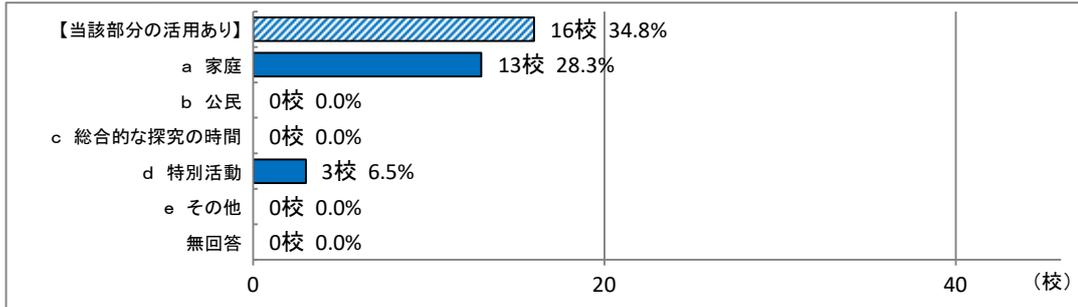
カ 第2章 ①自分を見つける(複数回答)

※活用した46校中



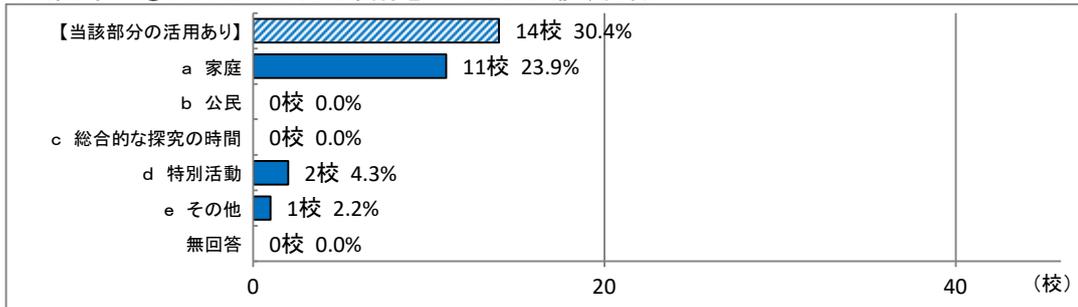
キ 第2章 ②人との関わりを考える(複数回答)

※活用した46校中



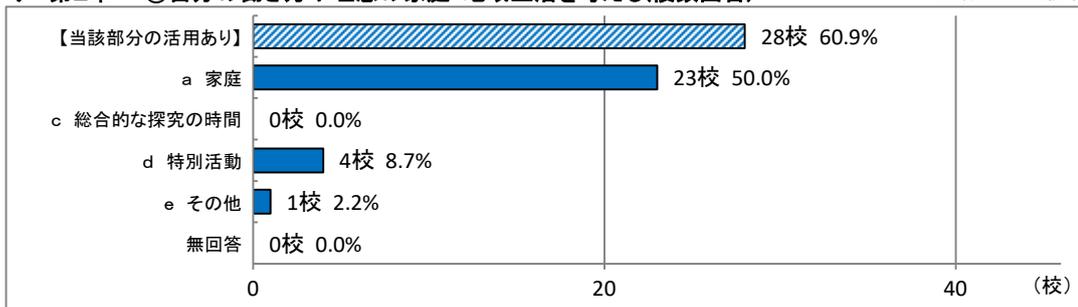
ク 第2章 ③人と人とのよりよい関係をつくるために(複数回答)

※活用した46校中



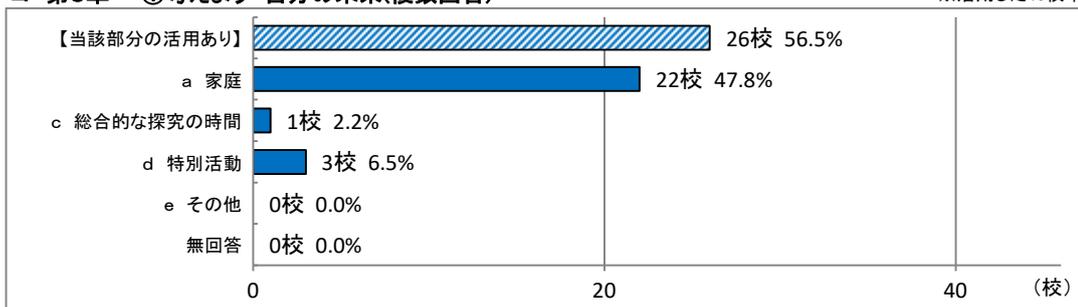
ケ 第2章 ④自分の働き方や理想の家庭・地域生活を考える(複数回答)

※活用した46校中



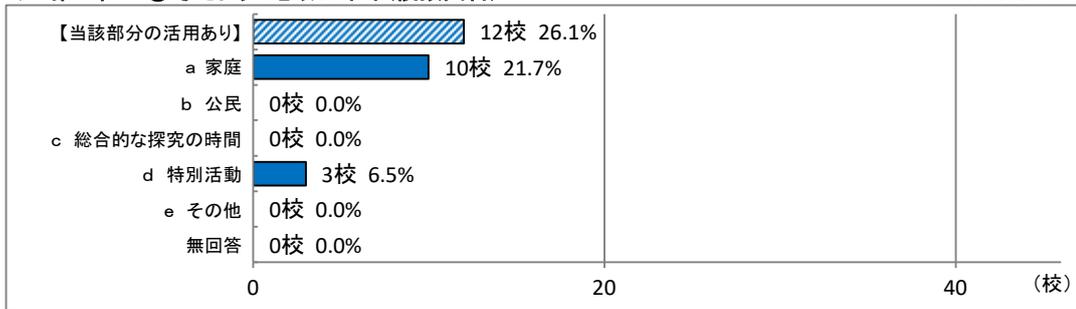
コ 第3章 ①考えよう 自分の未来(複数回答)

※活用した46校中



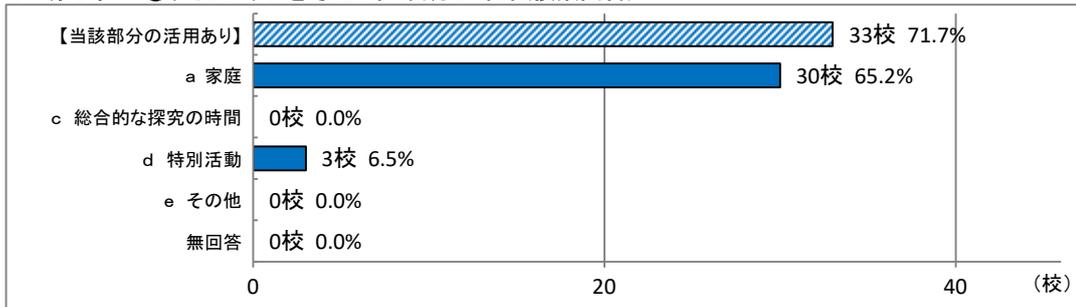
サ 第3章 ②考えよう 地域の未来(複数回答)

※活用した46校中



シ 第3章 ③ライフプランを考えよう 自分の未来(複数回答)

※活用した46校中



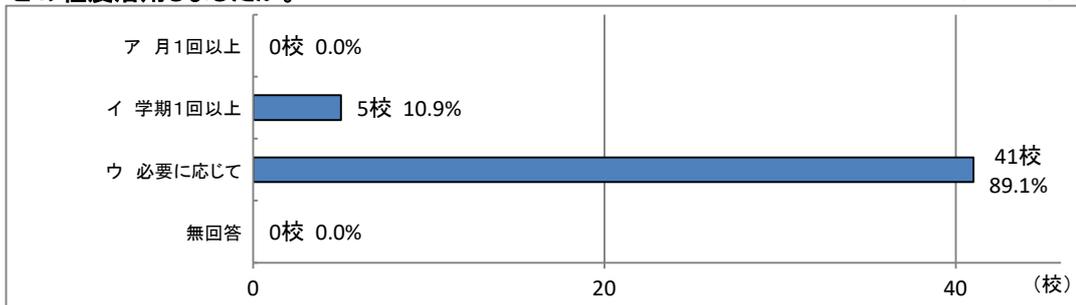
ス その他(複数回答)

※活用した46校中

※他の部分の活用該当なし

問5 どの程度活用しましたか。

※活用した46校中



「イ 学期1回以上」の活用頻度

※「イ 学期1回以上」の回答5校中

活用頻度	2学期制の学校	3学期制の学校
一学期当たり1回程度	1校	1校
一学期当たり2回程度	0校	3校

「ウ 必要に応じて」の活用頻度

※「ウ 必要に応じて」の回答40校中(年間頻度無回答1校を除外)

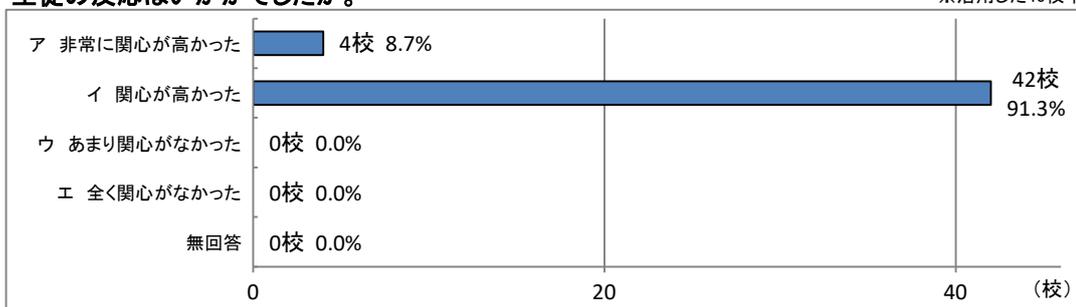
年間頻度	校数
年間1回程度	7校
年間2回程度	14校
年間3回程度	14校
年間4回程度	2校
年間5回程度・それ以上	3校

「ウ 必要に応じて」活用した学校での活用機会等についての主な回答

- ・家庭科の関連単元(家族、保育、人生設計、ライフプラン、対人スキルほか)の授業で活用
- ・総合的な探究の時間で活用
- ・LHR(進路学習ほか)で活用

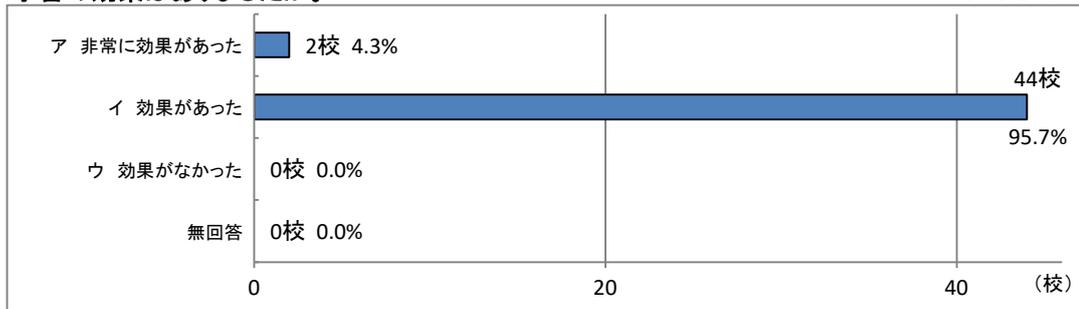
問6 生徒の反応はいかがでしたか。

※活用した46校中



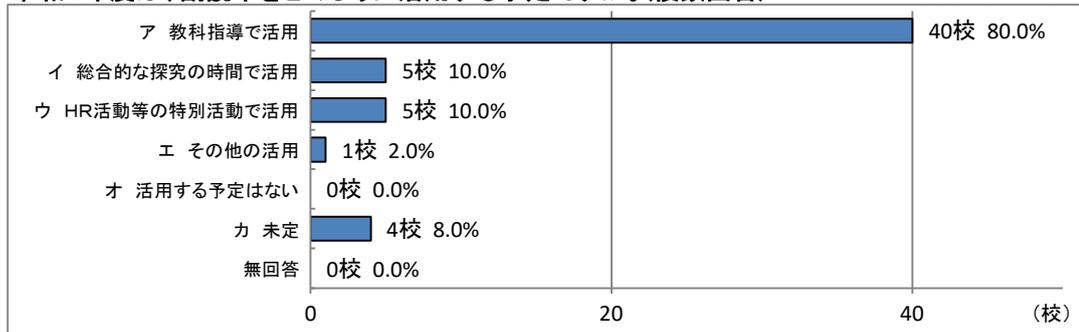
問7 学習の効果はありましたか。

※活用した46校中



問8 令和6年度は、副読本をどのように活用する予定ですか。(複数回答)

※回答があった50校中



活用方法「エ その他の活用」の主な回答  
・内容によって、抜粋する形で活用したい。

問9 副読本の内容等についての感想、意見等を自由に記入してください。

添付「問9 副読本の内容等についての感想、意見等（高等学校）」を参照

問9 副読本の内容等についての感想、意見等（高等学校）

主に副読本の内容に関する感想、意見等
<p>以前にあった、秋田再発見！の内容がよかったので、復活させてほしい。 秋田県の良さを伝えられる写真などが効果的だと感じています。</p>
<p>WEB版があるので電子黒板やタブレットでも使いやすかった。 ・P5では5つの資料から多角的に比較するだけでなく、それぞれの統計資料についても産業構造や就業形態、交通網の発達などの違いを意識させながら考察させ、いろいろな考えを引き出すことができた。欲を言えば、誌面に、数値の背景まで考えることを促すような表記があるとよい。 ・以前配布された少子化対策副読本と重複している部分があり、その意向が残っている印象がある。いっぽうで、ライフプラン後半の高齢期に対するアプローチがあまり感じられなかった。自分と地域の未来を考える教材であるならば、もう少し触れてもよいと感じた。</p>
<p>P5「②秋田と首都圏の暮らし」では、統計を用いて生徒に考えさせたい意図があると思うが、数値の単純比較で終わらず、数字の背景にある産業構造や通勤手段などの社会的現状をふまえた分析や考察をさせる必要があると考え。そのような思考を促すような表記があると生徒も使いやすいのではないかと。 同ページの「医療施設数」は東京都や全国平均と比べ遜色ない数値であったが、本校の地域では閉院や診療科目の減少や偏りがあり、生徒の実感とはかけ離れていた。 第1章については、内容も多岐にわたっており、生徒も秋田県の現状を知ることはできたと思う。</p>
<p>秋田で働く、秋田で子育てすることが男女共同参画の視点で書かれており、将来像を具体的に考えやすい。</p>
<p>秋田県の現状が分かる資料として、視覚的に訴えるものであり、生徒にとっては有効だと思う。</p>
<p>裏表紙に相談窓口一覧もあり、必要な情報がコンパクトにまとめられていると思います。</p>
<p>生徒が秋田県の実情を把握するための資料が豊富で、具体的なライフプランを検討するためのよい手立てになった。</p>
<p>秋田のよさや現状等が様々な視点からコンパクトにまとめられており、適宜活用したい。</p>
<p>秋田の現状を理解することができた。 将来への見通しをもつことができた。</p>
<p>さまざまなデータを掲載していただいているので、生徒たちは、具体的なイメージを抱きやすく活用させていただいております。</p>
<p>客観的に捉えるためにデータは必要であると思うが、データだけでは高校生はあまり興味を持たないのではないかと感じる。</p>
<p>秋田県の現状や取組を提示するのに活用しやすい資料で、毎年活用させていただいています。情報にアクセスできるQRコードが掲載されており、助かっています。以前よりも情報量が少なくなっており、すっきりした反面、情報を収集するスキルが高くない生徒には、調べるのに時間がかかってしまったこともありました。生徒が取り組みやすいワークも入っていてよいですが、「多様性について考えよう」も県から発行されており、そちらとバランスをとって縮小してもよいのかなとも思います。</p>
<p>こういった内容であれば授業で活用できるかなど家庭・公民の教員等から意見を聴取し、それを踏まえた内容にすべきではないか。</p>
<p>秋田と東京の家計比較について、高校生にとっては二人以上の世帯よりも一人暮らしの生活費のほうが関心が高い。また、家庭科の授業で一人暮らしの家計管理を考える上で活用しやすい。</p>
<p>写真やデータの掲載により内容の理解が深まった。 文字が小さいので、視覚の不自由な生徒のために文字を大きくしてほしい。</p>
<p>第2章の内容が授業で活用しやすくなり、自分事として考えさせることができた。</p>
<p>内容は充実しているので、大いに活用したいと考えている。</p>
<p>QRコードで資料を読み取ることができ、より詳細な情報を得ることができた 秋田県の高齢化率も高まっている現状から、現生徒達は将来的に家族の介護を担う可能性が高い。介護福祉的な部分の現状と支援に関する内容も資料に入れて欲しい。（介護をする人のための支援などがあれば）</p>
<p>秋田県で子育てをするイメージが持てる内容となっていると思います。来年度も授業で活用したいと考えています。</p>
<p>本校は商業科の授業でFPに関する学習を行う科目や総合的な探究の時間で地域の結成かに向けたビジネス実践活動を行っており、副読本の内容はとても参考になる部分が多かった。 今年度はすでに年間計画ができていたため、あまり活用できなかったが、次年度は副読本も活用した年間計画を立てて、積極的に活用していきたい。</p>
主に副読本の活用や配布形態等に関する感想、意見等
<p>昨年度までは家庭総合の授業で活用していましたが、今年度は1年生のホームルームで配付しました。 内容が分かりやすいという意見がありました。</p>
<p>家庭基礎の教科書、資料集にある内容なので、学年末のまとめに活用予定でした。本校は学年末考査が2/21からで早いので、試験後の授業に計画していましたが、生徒全員からのアンケート回答が欲しいとの事で、前倒しになり、少し戸惑いました。</p>

## 問9 副読本の内容等についての感想、意見等（高等学校）

<p>1年生の家庭基礎で扱う学習内容が非常に多く、それぞれの分野で時間が割けない。せっかくいただいている副読本が思うように活用できず、もどかしい気持ちを抱いている。</p>
<p>毎年活用させていただいています。 活字になっていることで、信憑性のある最新のデータとして使っています。 次年度は、活用方法をもっと工夫し、使える場面を増やしたいと思います。</p>
<p>本校の場合、自分の将来の活躍の場として秋田県以外を検討している生徒も少なくない。 本県への定着意識の醸成を図る授業は、表現や伝え方に配慮しながら実施している。 本副読本は、生徒の本県への愛着を育み、自分らしく生きながら、将来はふるさと秋田の発展に直接的・間接的に貢献する態度を養うための教材として活用している。</p>
<p>秋田県の産業や子育て環境などについて理解を深めながら、ライフプランを考えさせることができました。</p>
<p>毎年最後の「ライフプランを考えよう」の記入を家庭科の学習のまとめとして記入しています。</p>
<p>本校は進学者がほとんどであるため、現在の秋田県について理解を深め、秋田県を離れた後にふるさとの良さに気づいたり、将来の進路として秋田県での就労を考えるきっかけづくりになればという意識をもって資料を活用しています。就労の場合の待遇面では、やはり首都圏に劣るためなかなか良い反応を得ることができないのですが、各地域の具体的な移住促進事業やそこで暮らす移住者の様子について、リモートワークや誘致企業などの資料もあるとさらに将来を考えると時の話のタネになるのかな、と思います。今回の資料で生徒が一番興味関心をもったのが秋田県就活情報サイト”こっちゃけ”にある就職情報や奨学金についての情報でした。次年度もそういった生徒に関心の高い、最新の県内情報を提供するために活用させていただきたいと考えています。</p>
<p>毎年、新しいデータを掲載していただきありがとうございます。秋田県の現状について学ぶとともに、自分の将来と結びつけさせながら今後も活用していきたいと思います。</p>
<p>グラフなどの資料はデータで使用できたら、教材で活用しやすい。</p>
<p>この副読本は対象生徒をどのように考えて作成しているものなのか。高校1年生の総学で使用することを想定しているのなら1年部へ、家庭科の授業で扱うことを想定しているのであれば、家庭科へ、など送付のときの宛名を明確にしてほしい。以前は「家庭科副読本」だったため、家庭科に来たが、家庭科がはずれてからは、毎年冊子の行方がわからなくなり、探すことになるので大変負担である。宛名を限定することができないのであれば、冊子とは別に同時期にメールで送り状を各校に送信し、冊子が届くことを知らせ、この調査があることも含めて、送り状と冊子が渡った部署で責任をもって活用するように周知してほしい。以前にもお伝えしたが改善されず、今年度も探すこととなった。ご検討をお願いしたい。</p>
<p>QRコードがたくさん掲載されていて、年々情報量が増えていると感じます。授業ではなかなか活用しきれませんが、「秋田で子育てを頑張る家族」のような動画は、生徒に将来のイメージをもたせやすく、とてもよいと思いました。1本の動画の長さも長すぎずちょうどよいと思います。 授業で活用しやすいように指導者用にパワーポイント版もあると助かります。</p>